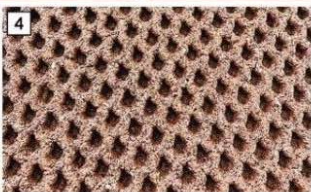


東京五輪・パラリンピック

「国立」高速トラックに好印象

高い反発力 トップ選手「スピード出る」



1陸上のセイコー・ゴールデンランプリ男子100m決勝で、国立競技場のトラックを力走する桐生祥秀(中央)、小池祐貴(左端)ら  
2「ハニカム構造」が接地時の衝撃を吸収して体への負担を減らし、足を押し返して推進力を生む(クリヤマ提供)  
3「トラックの表面」。凹凸のあるエンボス加工で水はけが良く、滑りにくい。国立競技場のために耐候性を高めた  
4「トラックの裏面」。蜂の巣のように正六角形の凹凸が並ぶ「ハニカム構造」

東京五輪・パラリンピックのメイン会場、国立競技場(東京都新宿区)で8月下旬、昨年の完成後初の本格的な陸上競技大会、セイコー・ゴールデンランプリが行われた。そこで選手たちから注目を集めたのが、接地の衝撃を和らげつつ反発力を生み出す最新の「高速トラック」だ。  
(大矢太作)

「しっかり反発があった。旺ミッス、両サール高出」  
と走りやすかった。男子100mは、初のトラックの感触をこ  
110m障害を13秒45のますう振り返った。  
まずのタイムで制した金井大。今季は新型コロナウイルス

の影響で2月の状態でない選手が多かったが、男子1000mは、初のケンブリッジ飛鳥(ナイキ)が「走りやすくていい」と言及は、日本歴代2

位タイの9秒98の記録がある小池祐貴(住友電工)、立命館慶祥高出も「結構硬くてスピードを出しやすい」と、新しい聖地を踏みしめた多くのトップ選手が好印象を口にした。

を並べた「ハニカム構造」になっている。これが接地時の足腰への衝撃を和らげる一方、変形したゴムが元の形に戻るときに反発力を生み出し、足を前に押し出す推進力になる。2008年北京五輪以降、裏面が六角形のもので使われており、それ以前の四角形に比べて、前後だけでなく左右を斜めからも衝撃を吸収する。表面は雨天時でも滑りにくく、凹みのある「エンボス加工」を施している。ゴムは紫外線の影響で劣化が早い。ため、モンド社(米国)の「ゴム素材」を結ぶ床材メーカーのクリヤマ(大阪市)が、国立競技場を使う新たなゴムを共同開発。紫外線への強さを示す耐候性が従来の約2倍となった。

「ゴム素材は暖かい」と歌うかくなる」と指摘するのは日本陸連強化委員会の山崎一彦ディレクター。状況は変わるため、対応も必要になる。さらに、同社のトラックが多く使われている欧米の選手は、このトラックに慣れている。日本選手が国立競技場の特性をしっかりと把握できるかが、東京大会での好成绩のポイントになりそうだ。

最新レーン私も走れる

気分は世界のトップ選手。国立競技場の最新トラックの感触は、一般でも味わうことができる。国内で唯一、国立競技場と同じトラックがあるのが、神戸市の「しあわせの村」多目的運動広場。同市で2008年を伴った陸上の世界選手権が開かれるのをきっかけに、最新式に改修し、10月上旬に利用を始めた。  
同市は世界選手権の開催地になったことに加え、来夏の東京五輪・パラリンピックの事前合宿でオーストラリアのバリンピックチームを受け入れる。同国の陸上競技連盟からの要望もあり、約2億2千万円をかけて、土れたトラックを国立競技場で描き

神戸市「多目的広場」

たアメリカ・モンド社製のゴム製へ改修した。  
トラックは6レーンで、走り幅跳びなど、使う助走路もある。だが、同市は新型コロナウイルスの影響で、各国の合宿生のPRができていないとい、担当者は「トップ選手はもう入。一般の方々にも広く使っていただき、口コミで評判が広がれば」と利用を呼びかけている。  
道内では、土州市陸上競技場や北斗市運動公園陸上競技場などにモンド社製のゴムトラックが使われている。モンド社と代理店契約を結ぶクリヤマによれば、いずれも裏面が四角形の旧式となる。(大矢太作)

あと305日

あと337日